

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	46	学校名	静岡県立藤枝東高等学校	校長名	佐野文子
------	----	-----	-------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
1	学ぶ意欲を喚起し、主体性を伸ばす授業や指導の改善等を進めることで、生徒の学力向上を図る。	アンケートで「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する授業が行われている」と回答する生徒・保護者が85%以上。	「学ぶ意欲を引き出す学習指導が行われている」と回答した生徒83%、保護者86%。 「学力が向上する学習指導が行われている」と回答した生徒89%、保護者85%。	A	・ICTを活用したり、グループ活動や探究的活動を取り入れたりした授業展開が増えている。引き続き生徒の主体的活動を促すための研究を進める。
		全教職員が積極的、意欲的に指導の工夫、授業に改善に取り組む。		B	・各教員が教材研究に励み、授業改善に取り組んでいる。相互の授業見学の機会を有効に利用する雰囲気が出てきている。
		主体的な家庭学習で質と量が向上する。アンケートで「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する補講が行われている」と回答する生徒が80%以上。	「学ぶ意欲を引き出す補講が行われている」と回答した生徒72%、 「学力が向上する補講が行われている」と回答した生徒82%。	B	・数値的には概ね達成できているように感じるが、「十分にあてはまる」と答えた生徒は20%に達していないので、補講の質を上げたい。 ・学ぶ意欲を引き出すという観点で補講の内容を再検討する必要がある。
		観点別評価に関する結果の検証と課題の整理を行う。	観点別評価についての議論を重ね共通理解を図った。実践の中で新たな課題解決に取り組んだ。	B	・検討を重ね、評価に関する合意形成を図りながら進めることができた。 ・教科間での差異を埋めながら、課題を解決し、授業改善に繋げる。
		総合的な探究の時間の指導計画に沿って効果的に指導する。自ら進んで授業に取り組む生徒の割合が75%以上。	自ら進んで授業に取り組む生徒の割合が90%以上。	B	・担当者の負担が大きく、効果的・体系的なシステムの構築が必要である。 ・教務課、進路課、探究課、学年主任による情報共有の場が必要である。
2	生徒が高い志を抱き、その進路実現を果たすための適切な指導を行う。	「志を育む指導が行われている、進路に関する情報が適切に提供されている」と回答する生徒・保護者が85%以上。進路意識を高める進路日より、学年だよりの一層の充実が図られる。	「志を育む指導が行われている」と答えた生徒80%、保護者84%。 「情報が適切に提供されている」と答えた生徒82%、保護者82%。	B	・育むべき志について、教員・生徒・保護者が同じイメージとは限らないので、情報を適切に提供する必要がある。生徒とのこまめな面談や、保護者との連絡、常時アクセスできるデータベースなど情報伝達の方法にも工夫が必要である。

様式第3号

		アンケートで「進路実現に向けての学力向上、理解向上に役立った」と回答する生徒の割合が増加する。	土曜講習の満足度:国 91%,英 80% 数 74%,化 89%、外部講師の補講満足度:国 75%,英語 79%,数学 69%。	C	・土曜講習の受講率が低下してしまっている。生徒が受講しやすい講座設定や講座内容を研究しなければならない。
3	様々な学校行事等における協働を通じて、多様性、国際性、豊かな感性、思いやりの心等を育み、人間性を高める。	アンケートで「学校行事に意欲的に取り組んだ」と回答する生徒 95%以上。	「学校行事に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒 94%。	A	・生徒たちは意欲的・創造的に行事に取り組み、成果が得られた。コロナ禍でも継続し、マニュアル化したことで引継ぎができた。
		アンケートで「部活動に意欲的に取り組んだ」「活動内容や時間が適切である」と回答する生徒・保護者が 90%以上。	「部活動に意欲的に取り組んだ」生徒 88%。 「適切である」と答えた生徒 81%、保護者 81%。	A	・体育的行事が生徒の人間性向上に大きく貢献している。 ・近年、部活動に対する考え方が大きく変化してきているが、適切であるとの答えが増えていることは好結果であるといえる。
4	社会に主体的にかかわり、正しい行いを通じて、自立した社会性・公共性を身につける。	全教職員による街頭（登校）指導の継続実施。自転車の整備点検の徹底。年間事故件数 20 件以下。	報告された事故は 16 件。	B	・事故件数が減少し、イエローカード件数も大幅に減少した点は良かったが、事故後の対応等に問題があり、今後の指導が必要である。
		アンケートで「高校生活について適切に指導が行われている」と回答する生徒・保護者が 90%以上。	「高校生活について適切に指導が行われている」と回答した生徒 81%、保護者 90%	B	・比較的穏やかな指導でも、生徒はルールを守れていると思うが、細かな部分で教員間の意思統一が必要である。 ・スマホの使用ルールについては検証をする必要がある。
		生徒の積極的な参加や活動が増加する。	生徒への広報活動は行っているが活発だとは言えない状況である。	C	・生徒にも多忙感があり、外部活動への活動に消極的である。積極的な参加を支援していきたい。
		機会を捉えて継続的に指導する。体罰・セクハラ及びいじめともに“ゼロ”。アンケートで「頼れる先生がいる」と回答する生徒・保護者が 85%以上	生徒への調査の結果、体罰やいじめの報告件数 0。 「頼れる先生がいる」と回答した生徒 86%、保護者 86%。	B	・生徒とのコミュニケーションを大切にする。教員がそれぞれの立場で、教育相談的に耳を傾け、今後も丁寧に対応していきたい。
5	保護者・学校後援会・同窓会・地域等との連携の下、信頼され応援される学校づくりを進める。	進路支援員、図書支援員、スクールカウンセラーを継続配置。	進路支援員、図書支援員、スクールカウンセラーを継続配置できた。	A	・支援員は本校にはなくてはならない存在であり、次年度以降も継続する。特に SC については、多くの問題解決に結びついており、その存在は大きい。
		アンケートで「情報を適切に伝えている」と回答する生徒・保護者が 95%以上。卒業生等出演の学校 PR 動画の作成。	「HP は学校の情報を適切に伝えるものである」と回答した生徒 88%、保護者 96%。	B	・学校ホームページに加え、学校の公式インスタグラムによる情報発信ができています。 ・100 周年記念事業を含め、学校 PR 動画を作成する。

		可能な限りPTA総会や各種行事の出席を促す。アンケートで「参考になった(良かった)」と回答する保護者が95%以上。	PTA進路研修会では98%が参考になったと答えた。	B	・コロナ禍の影響もありPTA総会の参加率は低い状況であるが、進路情報の伝達も含めて、PTA行事への保護者参加を促進する方法を検討する。
		アンケートで「来校目的を達成することができた、良かった」と回答する来校者が100%。	一日体験入学で良かったとの回答ほぼ100%。公開授業で目的が達成できたとの回答100%だった	B	・アンケート結果は良いが、中学生またはその保護者のニーズに合致した内容なのかについては再考が必要である。
6	より良い学習環境の整備充実と安心安全な学校づくりを進める。	学校全体で、生徒の安心安全に対する意識が向上する。アンケートで「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答する生徒・保護者が95%以上。	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答した生徒89%、保護者94%。	B	・新型コロナウイルスへの対応については、感染拡大を最小限にとどめ適切に対応できた。 ・教育相談については、保健室とSCが連携し対応できたが、チーム支援の形を整えたい。
		アンケートで「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答する生徒・保護者が80%以上。	「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答する生徒72%、保護者83%。	B	・校内での避難訓練、防災訓練は実施できたが、地域防災訓練への参加者は極めて少ない。参加促進は難しい状況だが、防災意識は高めなければならない。
		アンケートで「学校の施設や設備は、適切に整備されている」と回答する生徒・保護者80%以上。	「学校の施設や設備は、適切に整備されている」と回答した生徒79%、保護者82%。	B	・日常の環境整備作業が充実した。 ・新校舎完成間近ということで、新たな整備は難しい状況だが、安全に関わる破損等には、迅速に対応する。